

WACATE マガジン Magazine Vol.23

🌸ご挨拶🌸

WACATE-Magazine をご覧の皆様、こんにちは。
WACATE-Magazine 編集部です。

急に冷えましたね。
体調など崩しがちな季節になりましたが
皆様どうぞご自愛くださいませ。



さて。WACATE 2010 冬の募集が開始してから
約一カ月が経とうとしており、
そろそろ締め切りが近くなりました。
是非お誘い合わせのうえ、ご参加くださいませ♪

WACATE-Magazine 編集部も、てんやわんやな状況
ですが皆さんに楽しんでいただけるように、
鋭意執筆中でございます♪
では、Magazine 23号、はじまるよ！

🌸お品書き🌸

【特集1】

WACATE 2010 冬
～そろそろ締め切りだよ！すぺしゃる！！～

【特集2】

JaSST' 10 Tokai Report!!

【特集3】

JSTQB Conference に、行ってきました。

【リレーコラム】

ワカテにきく。

【リレーコラム】

Software Test Topics

【連載】

ミュージカルに恋して

【不定期連載】

WACATE-Blog 出張所すぺしある
「脱ガッカリ・ニセコッアー！」

【連載】

源太郎のソフトウェアテスト占い

【あとがき】

🌸WACATE Topics🌸

WACATE 2010 冬 募集開始！
<http://wacate.jp/>

JaSST' 10 Kyushu のメディアスポンサーに
WACATE-Magazine 編集部が！

JaSST' 11 Tokyo に WACATE 実行委員が
登壇しますよ！

ー WACATE 2010 冬 ー

そろそろ締め切りだよ！！すぺしゃる！！

さてさて。来たる 12 月 18 日、19 日の一泊二日
四食・勉強付きでお送りする
ソフトウェアテスト合宿ワークショップ、WACATE
2010 冬がもうすぐ募集が締め切られようとして
います。
…この号が出る頃には既に満員だったりして…

いやしかしこの原稿を書いているときにはまだ
枠が多少空いておりますので、是非ともご参加申
し込みいただければと思います、今回も WACATE 2010
冬の情報をお届けいたします！

さて。既に皆さん
WACATE-Web (<http://wacate.jp>) はご覧いただい
たとは思いますが、とうとう辰巳さんのクロージ
ングセッションがベールを脱ぎましたね。

今回は辰巳さんのセッションの紹介及び他のセ
ッションの追加情報をお届けします！

◆BPP セッション ・小田部さん

ベストポジションペーパーセッションの概要が
追加されました。
今回の発表者、小田部さんのテーマは
「WACATE とスキーに見る、加速効果の共通性に
ついての一考察」
熱いですね。タイトルと写真だけで加速力が伝わ
ってきます。さすがは Best Position Paper 賞受
賞者といったところでしょうか。
どういった内容になるのか、今から楽しみです。

今回のおたべさんのポジションペーパーの内容
も気になりますね～。
今年はどんなポジションペーパーが集まって、誰
のポジションペーパーが選ばれるのか。とても楽
しみです☆

◆技法を勉強する前に ・ミッキーさん

参考 URL と予習ポイントが出ていますね。
参考 URL は「TEF(テスト技術者交流会)の技法ま
とめページ」と「SEC/IPA(情報処理機構)のガイ
ドブック」です。

皆さんが普段使っている技法や普段実施してい
るテストは一体どういった位置づけなのか。

それを把握してみましょう！
自分の立ち位置を把握するというはとても
勉強になりますよ！

◆技法ワークショップ ・加瀬さん

参考書籍が紹介されていますね。
基礎として ISTQB シラバス準拠の基礎と
最近業界で話題沸騰のこの本！
「ソフトウェアテスト技法ドリル-テスト設計の
考え方と実際」！
技法の説明だけでなくノウハウが凝縮されてい
るこの本は予習に使えるだけでなく、とても有用
な本ですのでテストエンジニア必携の一冊です
よ！

さらにマニアックな JIS X 0125:1986 決定表(デ
シジョンテーブル)がありますねー。
デシジョンテーブルの古い書籍となると、この決
定表となるようです。日本のデシジョンテーブル
の原点に戻る！素晴らしいですね。
超硬派でお送りする加瀬さんの技法ワークショ
ップが楽しみです。

◆モーニングセッション ・大西建児さん

実は、web の方にも掲載されていませんがモーニ
ングセッションの講師が「ビューティフルテスト
イング」の監訳でおなじみの大西建児さんに決定
いたしました。
内容については現在微調整中！そろそろ紹介で
きるかも？

JSTQB カンファレンスでのパネルでの話も気
になりますね！どうぞ期待！！

◆技法の必要性を考えるセッション ・河野さん

イケメン SQiP 講師の河野さんから概要と予習の
ポイントが更新されました。
「ぶっつけ本番やりますよ！」とのことですが
予習のポイントも前代未聞の
「予習しないでください」

これは面白そうな予感がプンプンしますね♪

◆Test. SSF セッション

・コヤマン

昨年の JaSST'10 東京での発表がありました

“テストのスキル標準「Test. SSF (Test. Skill Standard Framework.)」”

それは、日本の強みである高品質の製品開発・ソフトウェア開発において、テストは重要な技術であり、スキル標準での定義と人材育成が必要である。という理念のもとに作成されています。既に発表された Test. SSF から独自のフレームワークを作成し、皆さんに実際に使っていただく予定です。

このセッションの中で、自分の力（強み・弱み）を知りましょう。

そして、それは自らの実力を知ることによって、今後のスキルパスに必要なことが明確になっていくと思います。

WACATE 当日のディスカッションや分科会などでも新しい気づきや、新たに得たことを含め、自らが成長するために必要なパネになるかもしれません。

◆クロージングセッション

・辰巳敬三さん

とうとうベールを脱いだ辰巳さんのセッション。「ソフトウェアテスト・ヒストリーの学び方」。参考書籍にも上がっています、ソフトウェアテスト PRESS vol.8、vol.9において執筆されたものを前提にお話をさせていただきます。

ソフトウェアテスト・ヒストリーの参考文献をご覧になりましたか？

あの圧倒的な参考文献の量に衝撃を受けた読者の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

しかもサブタイトルが熱すぎます。

「タメにならなければ学ばない。面白くなければ学ぶ資格がない。」

…こ、これは！

すごく過激にも見えるタイトルですが、辰巳さんにはたくさんの想いがあるのです。

なぜ、辰巳さんがソフトウェアテスト・ヒストリーを調べようと思ったのか。。正に温故知新を体現する辰巳さんのセッションに今から期待しています。

…うーん。言いたい！でもお楽しみは次号にも取っておきたい！

とゆーワケで次号は辰巳さんからのメッセージと共に、更なる詳細な情報をお届けします！

◆来たれ WACATE へ！

さあさあ、情報が出そろって参りました WACATE 2010 冬。

今回もテーマに沿って熱いセッションが目白押しですね。しかも「技」にこだわっているセッションばかりです。

WACATE 実行委員会も現在必死に皆様に有意義な時間を過ごしていただくべく一生懸命セッションを構築しています！

迷っていらっしゃる方も是非ご参加ください。ソフトウェアテストに興味があれば、確実に楽しめます。

お申込みはコチラまで。

(<http://wacate.jp/entry/>)

◆前夜祭やるよ！！

今回は前夜祭を WACATE 実行委員会側で用意いたしました！！

朝早くがツライ！

遠方から行くから前泊したい！

前夜から仲間と飲みたい！w

そんな方は是非こちらへ！

WACATE2010 冬 前夜祭

<http://kokucheese.com/event/index/5142/>

来たれ！若手達よ！

ココには同志と熱いやつらが待っている！！！！

書いた人：WACATE 2010 冬 実行委員会

JaSST'10 Tokai Report

前編*

■10月のJaSST 2箇所めは東海だ!!

今年も残すところ2ヶ月弱となりましたね。
みなさん、今年はどこかのJaSSTに参加しましたか？
今年各地のJaSSTでWACATEファンを多く見かけるようになりまして。地元の方と他地方からはるばる訪れている方と両方がいて、JaSSTを機会に交流を深めるイベントが開催されたりと、盛り上がっている様子
がうかがえるのはとても喜ばしいことですね☆

さてさて、今回はTokaiです！2年目の今回は講演だけではなくポスター展示やSIGも交えた構成で、いろいろなかたちでシンポジウムを満喫できる！仲間も増やせる！という・・・とてもオイシイプログラムとなっていました。

今回はレポート作成のために、JaSST 東海実行委員会より多大なるご協力をいただきました。ここに御礼を申し上げます。

それではTokaiのオイシイ日をどうぞ～☆

JaSST'10 Tokai 10月22日(Fri)

於 名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)

テストから始めるイノベーション

～テストのプロセス、技術、人に必要なものを考える～

実行委員の小池さんからご挨拶！

「イノベーション」というテーマだが、「変化」程度にとらえていただければと思う。変化を起こすためには何らかの刺激が必要かと思う。

時にはゆるく、ときにはハードに刺激を与えたい。SIGのほう、特にゆるいものからハードなものまで用意してます♪

今日話を聴いて、深く学びたい、実技でトライしたい、など「楽しかったね～」で終わらないように、モチベーションを維持するために是非、**今日熱く語り合える仲間を見つけてほしい！**

もし見つからなかったら実行委員を捕まえて(声をかけて)♪

・・・といった内容でした。

さてさて、参加されたみなさん、順調に仲間と変化を起こしていますか？

■基調講演

「ソフトウェア独立検証

～その必要性と先進事例の紹介～

山本 修一郎 氏

■セッションレポート

◇なぜ独立検証なのか

なぜ独立検証が導入されない？

システムの障害に対する認識が十分でない。事故を起こしていない会社は認識できない。本来は事故を起こさないための取り組みなのに・・・

どうして独立検証なのか？それを理解することは相当難しい。

ちゃんとテストしたことの証拠をみせなさい。**残ってますか？無くなってませんか？**

倫理的行動をちゃんととっていますか？「一応テストしたことにしておこう」「はしょっちゃいました」というのは手抜き工事。結構起きていると思う。

テストでも社会的責任という視点から見直す必要があるのでは？

テストの範囲を決めたのは誰かを明確にしておく必要がある。証拠が無いと手抜きだといわれる。

よくつかわれているものほど問題が起きる可能性がある。高信頼なシステムほど長い間使われる。そのシステムでも事故は起きる。10年後に起こるかもしれない。当時(技術的に)できなかったことでも10年後は可能になっているかもしれない。10年前にはそれは実現不可能だったということがちゃんと示せないダメ。

そういうことについて「客観的な証拠」が必要。だから第三者検証が必要。

あるいは**フォーマルメソッド**を用いる。そうすれば誰がやっても同じ結果になる。

第三者検証確認の課題について

客観的な証拠を残すのは保障(保険)。説明責任が求められるようになる。だから第三者検証確認は冗長ではない。

どこまで検証確認するのか？それはコスト上、どういう環境で？どういうオペレーション？・・・システムに対するリスク分析が必要。どのように使われるかが分かっていないと検証できない。

第三者へ情報提供しても不利にならない仕組みが必要

責任問題が問われるような(そんなぼろぼろなものではそもそもダメなのでは？)

◇IEEE Std. 1012-2004 IV&Vの話

V&V(検証と確認)

入口で確認するのが検証、出口で確認するのが確認

期間で区切られると、各工程の区切りで検証確認が行われず。不十分な点が後工程に引き継がれてしまう。開発標準が無いと検証できない。後続工程の開始基準を満たしていないとだめ。

問題がなにかが定義されていなければ問題の正しさがわからない！

IV&Vの基本概念図

財政独立性、管理独立性、技術独立性が、それぞれ独立していますか？

少しずつ実際のプロジェクトに任せるケースがある。その組織の中で勝手にやってるわけではないということを保証する必要がある。きちんと公式な手続きに基づいていること。

IV&V ライフサイクルは実施だけじゃない。計画とその評価の3つ(企画・実施・報告)がセット。

IEEE Std. 1012-2004の要求 V&Vについて

要件定義する人だけでは作成できない。テストする人と一緒にやる必要があるだろう。システムテスト計画作成と受け入れテスト計画作成はテストに関連している。

実際はテスト工程でテスト計画をたてているのでは？

それでは上手くいかない、という考え方が IEEE1012

IEEE Std. 1012-2004のテスト V&Vについて

最近はすべての工程でセキュリティやリスクについて分析する必要がある。

各工程の中でやるべき分析をやっていく、という考え方。

ちゃんと実行するのは負担が大きいかもしれないが、セキュリティやリスクもテストエンジニアに不可欠。セキュリティ専門家にまかせりゃいいじゃんではダメ。

リスク分析で「どこまでやればいいよね？」を判断しよう。なぜそれが正しいのか？記録を残すことが大事。

IEEE Std. 1012-2004の運用 V&Vについて

運用によって新たなリスクが発生しないか？

運用マニュアルありますか？と訊くと口ごもることがある。記録されていないが何となく運用ができている。その状態でリスク分析できる？(できない)。**運用手順、運用規則が明確になっていないと確認できない！**

IEEE Std. 1012-2004の保守 V&Vについて

要求のリタイアメント(退役要求)というのがある。いらなくなった要求は外しましょう！！

◇独立検証の先進事例

3件の事例を紹介。

前工程の完了基準が満たされているということは次の工程の開始基準を満たしていること。生産性が落ちるのは前工程がきちんとできていないから。つくってみたいとわからない、といわれるが、本当につくるべきものが何か？が十分分かっていないから抜けるのではないか。

結局はテスト工程で品質を上げようとしているが、本来は各工程で品質目標を設け判定する必要がある。それができていないとフィードバックループが完結しない。

テスト生産性は、テスト工程で狩り取るものが減れば上がるはず！テスト活動を前倒しすることで、(途中段階でコストがプラスになっても)最終的には向上する！(と予測している)

◇テストと開発、運用について

運用と保守を改善しないとシステム改善しない！

ところが、運用をよくわかってない。要求と運用手順のトレーサビリティとれてる？運用手順の変更管理もされていない。

運用手順として書くのではなく、開発ドキュメントに埋め込まれているべき。

要求とテストも似たようなことがある。

要件定義書にテストすることが埋め込まれているべき。こういうテストをしてほしい、という記録を残しておけばよい。

◇相互理解モデルに向けて

BABOKのステークホルダとしてテスト専門家も入る。逆に、テスト知識体系があったとしたら、要求定義専門家はどこかに位置づけられていないといけない。皆さんの立場からなにができるか？考えていく必要があるのではないかな。

TOJ サイクル

要件とテストと、オペレーション(どうやって使われるか)

その根拠を遺すために運用も定義しないといけない。相互理解モデルにならない！

運用要求の基本構造モデルを帳票化し、それを利用することで、ほとんどが抜けているのが見えてくる。こういう表があるとテストも楽になる。

運用によって発見される障害は開発の倍ある！

■セッション感想

自己紹介のスライドも多いwそれだけ経験が多く、得たものも多いのですね☆

本題に入る前からとても濃いお話が聴けました。ご自身の経験から感じられるようになったことをいくつか紹介されましたので、ちょっと抜粋してみました。

「大学で教えてもらえないことでも3年やれば身に着く」

「プロジェクトには初めから終わりまでとは限らない(途中から途中までだってある)そういうのは実践の中から学ぶこと。教科書に書いてあることだけでなく、行間を埋め込む作業が必要。どうやって実証していくか、を作りこんでいく。」

「分かっていることを確認するのがテストではなく、分かっていないことを洗い出すのがテストではないか？」

「機能がリッチであれば成功するのか？みんなに受け入れてもらえるのか？」

「技術がいくら優れていても技術だけではだめ。現場にマッチしてなきゃだめ。教育がなければだめ。」

などなど・・・思わず頷きたくなります。

客観的な証拠を遺すという意識はソフトウェアテストにおいてだいぶ意識されてきているとは思いますが、管理の仕方などまだ不十分なことがある気がします。また、要求とテストだけでなく運用も意識することはとても大事だということに改めて認識しました。

■ポスターセッション

九州で恒例となっているポスター展示が東海にも登場！！9つの個人・団体・企業がポスター展示を行っていました。

人垣ができてたところもありました！！プレゼンターが動作を交えて一生懸命説明していたのがとても印象的でした。ポスター発表って、展示物だけでなく、プレゼンテーションも重要だったのかっ！！w

また、TEF 東海勉強会から発表されているものが2つありました。

・大野道場

・TEF 東海メトリクス勉強会

TEF 東海勉強会の活動がJaSSTで紹介されるのを期待していたこともあり、とても楽しみにしていました。いずれも興味深い取り組みが行われている様子がかげました。今後東海や他の地域のJaSSTで発表されるのを期待しています☆

個人の取り組みの発表も素晴らしかったです。

LTは限られた時間でどれだけ伝えられるか？ですが、ポスター発表の場合は限られた枚数でどれだけ伝えられるか？が問われる点で難しく面白いのだと思います。

また、ポスターを展示するだけでなく、その場でプレゼンテーションすることで発表者も参加者もより理解を深め楽しめるのだなぁということに気づきました。

■特別講演1

「アジャイルテストとその活用方法」

増田 聡 氏

瀧口 健太郎 氏

■セッションレポート

書籍「実践アジャイルテスト」の考え方やプラクティスを実践する方法を試行してみた。

アジャイルテストとは？

アジャイルソフトウェア開発におけるテストの考え方。

そも、アジャイル(アジャイル開発プロセス)とは？動くものを都度リリースしていく

じゃあアジャイルテストは何？

プラクティス(経験則)がある。

・チーム一体アプローチ(チーム全体で)

・自動化(効率化をはかろう)

従来はゲート型。プログラマ、ビジネスアナリスト、テスターそれぞれが自身のことだけ考える。
アジャイルはどの立場も考慮する。

アジャイルテストの4象限について
ビジネス面(ユーザ要求)-技術面(構成要素や非機能要件)の軸と目的軸(チーム支援か製品批評か)で4つに分けて考えてみる。

アジャイルテストのプラクティスとしては7つある。

ここまでが「教科書に書かれていた」レベル
それを実践する

4象限について、自動化できるもの、自動化すべきでないものを考える。

第1象限：単体テスト

自動化する(xUnit)。
作った人がテスト。自分自身でフィードバック

第2象限：機能テスト(チームを支援するテスト)

自動化できるものもある。(Fit/FitNesse)
ビジネスアナリスト(要件定義する人)がテストの記述ファイルを作成、実行する→プログラマにフィードバック

第3象限： α/β テストなど、ユーザ立場で製品を批評するテスト→手動テスト

自動化に向かないと書籍にはかかっているが、ユーザビリティ・探索テスト以外のテストについて、テストデータ作成などは自動化できるだろう。(Data Generator)

第4象限：「～性」などの非機能要件のテスト

負荷テストツールを自作ツールで試行(理由：オープンソースや商用ツールでは、背景がわからない。全部揃ってないとテストできない)
早い段階から非機能的テストを行っていくことへのメリットを考慮

アジャイルテストは継続的インテグレーションが必要

4象限とテスト自動化のピラミッド(投資対効果の高い単体テストが基礎、投資対効果の低い手動テストが頂上)を用いてどこで自動化が必要かを判断して、ツールを活用する。

必要最小限のところから自動化をすすめ、徐々に範囲を広げていく。

チーム全体のアプローチをどう自動化する？

アジャイル開発においては各担当(全員)が責任をもつ。

ツールを活用することで1つのフレームワーク上で各作業ができる。

■セッション感想

アジャイルテストを知らない人にも分かりやすい説明だと思いました。

また、業務外の取り組み(勉強のしかた)の見本としても参考になる講演だったと思います。

■特別講演2

「AUTOSARを適用した車両システム開発環境の構築」

小林 展英 氏

■セッションレポート

- ・ユーザの視点から考える(Function)
- ・システムから考える(Network System)
システムが一つくらいおかしくても全体でOならよしとする、という考え
- ・ソフトウェアから考える(Software)
検査側の考えをドキュメント化できたら・・・
設計側の考えをドキュメント化できたら・・・

IPA：自動的に制御される機能→複数のECUが協調して実現される。

それにより、予想できない箇所に不具合がある。
(これに対する解決を示したかった。まだ未達成。)

自動車業界のとりくみのひとつがAUTOSAR(団体)

- ・機能間でやり取りする情報の標準化
- ・ソフトウェアアーキテクチャの標準化
ECUの枠組みを意識せずに設計する仕組み
「これに基づいてつくればどこに配置されようが動く」
わりと枯れているところに対し標準化されている
- ・開発方法論の標準化
設計情報の定義

では、

AUTOSARの定義を現場に導入していくとどうなる？

現場に合わせて、いつ、誰が、何を設計するか整理が必要。

AUTOSAR 開発方法論、3つの視点がある。

制御アプリ開発視点

ネットワークシステム設計視点

ソフト実装設計視点

この視点を縦軸にし、要素の特性として構造と振る舞いを横軸に置くことで開発工程を構造化する。

どういう流れがあるのか？

論理の内容をどうやって物理にだすか？

絵に書いた餅ではなく現実とするために

開発プロセス「Architecture Based Development」を提案。 アクティビティとツールチェーン。

AUTOSAR を用いてプロセス定義してみた(適用して、やってみよう！)

各開発工程のアクティビティを抽出。従来開発スタイルの流用を考慮。

各工程で用いるツールについて、AUTOSAR 準拠ツールを従来利用ツールと組み合わせる。

設計側とテスト側が連携して情報共有する。

■セッション感想

自動車関連の話が聴けるのは東海と九州の特典だと思います。なかなかドメインが異なるとすぐには理解できないところがありますが、少しずつ知識を得る機会がいただけるのは嬉しいと思います。

質疑応答で語られた「今までは道具も無かった。そこに AUTOSAR が道具としてできたので、使いこなしたい。」という一言がとても印象的でした。

■SIG

10のテーマが用意されました。

どのSIGを選ぶか？については、なんと当日ポスティングを希望SIGに貼るというアナログな方法がwww最終的にはどのテーマもバランスよく人数が分散していました。

2時間！じっくり討論会といったところ。グループごとに会場が分かれているわけではないので、他のグループの声が聴こえる・・・のをいかに聴かずに集中するかがカギでしょうか？！と思いつつ(どこのグループも惹かれるので聴きたいですね♫本音としてはw)しかし、実際始まると他のグループなんて気にならない！(でも「ぐるぐる」には反応しちゃったけどwww)実に楽しく充実した時間を過ごせました。

各SIGの概要・感想につきましては、次号掲載します★ お楽しみにどうぞ♪

■クロージング

実行委員の奥村さんの挨拶で閉会となりました。

「JaSST 東海のきっかけは TEF 東海の飲み会から。小さなきっかけから。2回目もできた！半年がんばった。みんなありがとう！！」という感謝のことばと、「持ち帰って、試してみて、試されたことを発表して共有していく場にしたい。」という、次回に向けてのことばがありました。

■情報交換会

情報交換会は、サッポロライオン 名古屋ビール園 浩養園に会場を移して行われました。SIG が行われた後だったこともあり、賑やかに語っているグループが多くあって、とても盛り上がっていました♫ホント、時間が足りなかったです。

更にその後 TEF 東海の皆さんおよび他地区から JaSST 東海に参加した WACATE ファンな皆さんで未明までアツク語り合ったとか・・・www

ところで我らがスター☆は今回参加できなかったのですが・・・何とスター☆のお弟子さんが参加されていましたw

いいなあ～あんなステキなお弟子さん、欲しいなあ～♪

さて！！

みなさんきつとご存知なとおり、**今年の JaSST はまだ1か所残っていますよん☆**

今年、まだ JaSST に参加できていないあなたも、密かに全国制覇を目指しているあなたも！是非九州に行ってみてはいかがでしょう？

今年も WACATE-Magazine は JaSST Kyushu のメディアスポンサーとして応援しています♫

書いた人：ばんばん@今年も JaSST 全国行脚中

JSTQB Conference in ISTQB world trend reports に、行ってきました。

さる10月14日(木)東京ステーションコンファ
レンス サピアタワーにて
JSTQB カンファレンス in 2010 ISTQB world
trend reportsが開催されました。

本イベントは特定非営利活動法人 ASTER と
JSTQB によるイベントで日本のテスト技術者
のために、ISTQB 関連の方をお招きして、テス
トについて語っていただくというとても豪華
なイベントでした。

本カンファレンスは有料であったため、細かく
内容を書くことはできませんが
ざっくりと内容をご紹介させていただきます
です！

◆チュートリアル

Rex Black 氏

「Metrics for Software Testing
Measuring Project, Process, and Product」

「基本から学ぶテストプロセス管理」「ソフト
ウェアテスト 12 の必勝プロセス」「ソフトウ
ェアテスト実践ワークブック」などでおなじみ、
Rex Black 氏が直々にやってくるということで
ソフトウェアテスト技術者はチュートリアル
に殺到したようです。
すでにちらほら参加者のレポートが上がった
りしているようです。

内容はざっと受講者に確認したところ
「優雅(エレガント)にメトリクスを取る」とい
うテーマを基にお話したそうです。
さすがは Rex 氏。言うことがカッコいい。
自分はエレガントに取れているだろうか？と
考えて少し凹みましたw
事例を交えた発表はきっと技術者の心にメッ
セージとして届いたのではないのでしょうか。

◆AM セッション1

Barnard Homes 氏

「IEEE829-2008 A Major Change In Focus」

IEEE829 の策定委員であり、フランスのソフト
ウェアテストコンサルティング会社 Tessco の
創立者である Barnard Homes 氏が策定委員とし
て IEEE829-2008 の説明をしてくださいました。
IEEE829-2008 の変更点にフォーカスを当て、
丁寧に説明してくださいました。

一番変化したことは「ドキュメント中心からプ
ロセスを中心に据え、プロセスによって作成す
るドキュメントの判断をする」といった点でし
た。

IEEE829-2008 はまだあまり適用事例を聞きま
せんが、使いこなせるようになると主流に成り
得ると思いました。

◆AM セッション2

Klaus Olsen 氏

「Learn how TMM made a 96%
defect detection rate possible TMMi」

TMMi (Test Maturity Model Integration) の伝道
師である Klaus Olsen 氏から TMMi の紹介と実
際に TMMi を使用した改善のお話をしてくだ
さりました。

「オリンピック選手は 95%はトレーニングを
しているが、テストエンジニアは 95%が実践を
している」という言葉がとても印象的でした。

今後は TMMi の認定試験等も考えているそう
です。
Test. SSF セッション担当者としてはとても興
味深い話が満載でした！

◆PMセッション

秋山 浩一氏

「HAYST法を用いたソフトウェアテスト」

ランチの後も超豪華メンバーは続きます。
日本からは我々が秋山さんが登壇しました。
秋山さんが HAYST 法に取り組んだ背景から始まり、HAYST 法を使う流れが丁寧に綴られていました。
日本生まれの技法として完成されている HAYST 法の流れは見ていだけでも美しいですね。
全体の戦略と効果的なバグ検出、そして大規模ソフトウェアの対応というメリットは聞いている皆さんの心を奪ったことでしょう。

◆パネルディスカッション

○パネリスト

大西 建児氏

Rex Black 氏

Barnard Homes 氏

Klaus Olsen 氏

○モデレータ

湯本 剛氏

石井 勇一氏

「世界のソフトウェアテスト最前線」と名付けられたパネルディスカッション。
超豪華パネリストがこれからのソフトウェアテスト技術者に求められる行動などを各々の考えから意見交換しました。

- ・開発すべきソフトウェアテスト技術は？
- ・リスクベーステスト
- ・メトリクスが形骸化したら？
- …などのアツイ議論が交わされました。

大西さんの締めの一言

「日本は進んでいると思います」という話は日本のテストエンジニア達に希望を与えた一言でした。

■感想

とても、とても有意義な一日でした。
気になっていた IEE829-2008 の内容もおぼろげながら理解できたうえに TMMi の話が聞け、更に秋山さんから HAYST 法の流れが聞けた後、将来について有識者の意見が聞ける。とても豪華な一日でした。

それぞれの講師がそれぞれの領域のエキスパートであったこともとても大きかったです。

通訳を通してですが、彼らのアツイ想いが伝わってきて、とても良い一日でした。
終わってからの有志による意見交換会も楽しかったです♪

有志による意見交換会は夜遅くまで継続し、用語の意味・解釈について長い間議論が交わされました。

※しかし、パネリストの中で Klaus 氏以外のパネリストが Software Testing ManiaX の執筆陣というところが驚きポイントですね。なんて贅沢なんだ ManiaX…。

書いた人：Magazine 編集部

タワゴトにきく※

第 23 回：【テストと EXCEL の深い関係？】 N 村さん

はじめまして、WACATE2009 冬や某 WG などよくよく縁のあるていがさんからバトンをうけとりました N 村です。

あまりアカデミックな事も話すかありませんので、今回はごくごく身近なツールからテーマを決めてみました。

テストと EXCEL

テストのツールといえば、単体テストツールやテスト管理ツールなど多種多様に存在していますが、もっとも身近で、多くの人に馴染みのあるツールといえば、ズバリ EXCEL ではないでしょうか。チェックリスト、進捗表、果ては仕様書、計画書まで、テストの現場でさまざまな利用のされ方がなされているものと思います。特にテストケースについては EXCEL で作成される場合が非常に多いと思います。また、進捗管理や信頼度成長曲線などテストの状況の”見える化”などにも必要不可欠です。

ともすればテスト技術者はもっとも EXCEL と縁深い職種ではないかとも思えてきます。

思い返せば入社間もない頃、「いいテスト技術者は EXCEL の小技をいっぱい知っている」という先輩の話を受けた私は、その後その他の事はそっちのけで、コツコツ”EXCEL 術”を学び、今では”EXCEL 馬鹿”を自称するに至っています。

お宅のフォーマットはどんなん？

自分は、これまでいくつかの現場を見てきましたが、どの現場にも一人くらいはエクセルに詳しい人がいらっしゃるもので、そういった方々を中心して、現場独自の工夫を凝らした”秘伝”のテストケースフォーマットやマクロが出来上がっていました。

テストケースフォーマットという、ごく基本的なものひとつとっても、各現場ごとに”ワザ”や特色、思想があり、それらを見るのも”EXCEL 馬鹿”としては楽しいものです。

品名	数量	単価	合計
Whisky	10	900	9000
Wine Bianco	20	150	3000
Wine Tinto	20	150	3000
Bones	10	100	1000
Teju Vampiro	20	150	3000
Sangria	20	150	3000
Tequila Reposado	10	100	1000
Jodka	10	100	1000
Baileys	20	150	3000
Amaretto	10	100	1000
Cognac	10	100	1000



著者近影

ですが一方で、関数やマクロをうまく使えばすぐ済むような内容を手入力でコツコツ入力していたり、微妙なフォーマットを使い続けているケースもあります。優秀なテスト管理者の方が、EXCEL の使い方に必ずしも長けているというわけでもなく、EXCEL の運用レベルは結構ばらつきがあるようにも見受けられます。

たかが EXCEL、されど EXCEL

みなさんは EXCEL をどこでどう覚えたのでしょうか？ EXCEL をまったく知らない新入社員向けの基礎講座を最初の集合教育時に実施するのみ、という会社は多いようです。より高度な利用法を教育としてフォローしているところは余り聞いたことがなく、そういったことが上記のような多様性や運用レベルのばらつきを生んでいると思われる。EXCEL の効率的な運用法や応用的な使い方は、意外と盲点なのかもしれません。

たかが EXCEL と侮ってはなりません。

例えば、「EXCEL のファイル名に” []” (半角大かっこ) を使ってはいけない」という禁則をご存じでしょうか？ この禁則文字は Windows ファイル名の禁則には存在せず、EXCEL 独自のファイル名禁則文字です。よって、EXCEL 上で名前” []” を付けて保存使用とすると、エラーが表示されます。ですが、Windows のエクスプローラ上から直接名前変更する場合は特にエラーもなく名前変更できてしまい、その後 EXCEL ファイルの保存や共有時に不具合を引き起こすこととなります。よって EXCEL ファイル名に” []”を入れるようなファイル命名ルールなどがあると、後々困った事態が発生することとなります。

この現象は、知名度は低いけど致命度は高く (上手いこと言った!)、注意しなければならないルールのひとつですが、このほかにも大規模プロジェクト時の EXCEL の効率的な運用法や、他アプリとの連携などの高度なマクロ運用、さらには”EXCEL の限界”を見定めた上での代替となるツールの考察などなど、「テストと EXCEL」については、まだまだ掘り下げられるのではないかと思います。

以上、EXCEL 馬鹿のタワゴトでした。

Software Test Topics

当番：上田卓由 (Magazine 編集部)

うえだです。
こんにちわっす♪

さてさて、来月には WACATE 2010 冬が開催されます。
WACATE の夏は1つのテーマをじっくり勉強する二日間です
が冬はいろいろなテーマのセッションで構成されています。
プログラムの中身をみてみると、「技法」という言葉が目につきますねー♪…っということで、Software Test Topics
もいつもの最新情報に加えて、技法を中心に関連書籍のご
紹介をしたいと思います。(セッションの中に予習ポイント
は「予習するな」というのもありますが、…)

それではいってみましょーっ♪♪♪

【セミナー】実践！ソフトウェアテスト技法演習

<http://www.juse.or.jp/software/88/>

開催日：2010年11月16日(火)、14:00~19:00
会場：東京・日科技連 千駄ヶ谷本部ビル 1号館2階B
研修室
テーマ：実践！ソフトウェアテスト技法演習
講師：河野 哲也 (電気通信大学)
参加費：5,250円 (税込)
定員：20名
対象：テスト技法を職場でうまく使いこなしたい方
概要：はじめに簡単なイントロダクションを行った後、テ
スト技法を使った演習をひたすら行います。

【イベント】ソフトウェアテストシンポジウム 2010 九州 (JaSST' 10 Kyushu)

<http://www.jasst.jp/archives/jasst10k.html>

開催日：2010年11月25日(木)~26日(金)
25日 13:50~16:45
26日 09:30~17:40
会場：熊本市国際交流会館

参加費：
チュートリアル+シンポジウム参加：6,300円 (税込)
シンポジウムのみ参加：4,200円
チュートリアルのみ参加：2,100円
情報交換会参加：3,500円

WACATE-Magazine がメディアスポンサーを務めます
JaSST' 10 Kyushu は今月末です！

今回は WACATE で見知ったあの方々がワークショップを行
うようです！
とても気になりますね♪

【書籍】ビューティフルテストングーソフトウェア テストの美しい実践

<http://amazon.co.jp/o/ASIN/4873114748/wacate-22/ref=nosim>

Tim Riley (編集), Adam Goucher (編集), 大西 建児 (監
訳) (翻訳), 児島 修 (翻訳)

価格：¥3,360(税込)
出版社：オライリージャパン
ISBN-10:4873114748
ISBN-13:978-4873114743
発売日：2010/10/27

それでは、技法や手法に関する書籍のご紹介をいたしま
すっ♪

【書籍】はじめて学ぶソフトウェアのテスト技法

<http://amazon.co.jp/o/ASIN/4822282511/wacate-22/ref=nosim>

リー・コーブランド 著 宗雅彦 訳

価格：¥2,520(税込)
出版社：日経BP社
ISBN-10:4822282511
ISBN-13:978-4822282516

【書籍】ソフトウェア・テストの技法 第2版

<http://amazon.co.jp/o/ASIN/4764903296/wacate-22/ref=nosim>

J. マイヤーズ (他) 原著, 松尾 正信 訳

価格：¥3,360(税込)
出版社：近代科学社
ISBN-10:4764903296
ISBN-13:978-4764903296

【書籍】現場の仕事がバリバリ進む ソフトウェアテスト手 法

<http://amazon.co.jp/o/ASIN/4774127116/wacate-22/ref=nosim>

高橋寿一、湯本剛 著

価格：¥2,499(税込)
出版社：技術評論社
ISBN-10:4774127116
ISBN-13:978-4774127118

このコーナーでは、書籍やイベントの情報を募集していま
す。

例えば、「来月勉強会とか OFF 会とか開催するんだけど掲
載してくれない？」といったものでも OK です。

開催地も、日本全国津々浦々、どこでもかまいません。

情報をお待ちしております m(_)_m

池田暁の

ミュージカルに恋して。

[第二十三幕]大学の講義にて

■ちょうど一年前の話

丁度一年前、偉い人から突然呼び出しを受け「来年、筑波大学でしゃべってこい」と申し付けられました。筑波大学大学院の博士課程（前期）に組み込みシステム論という科目があるのですが、これは企業各社が講師を派遣して講義するものとなっています。文部科学省の助成を受けていました(*1)から、産官学の取り組みと言えるでしょう。目的は高度なIT技術者の育成です。(*1 某事業仕分けにより支援事業が廃止となりました。まさか自分の近くに目に見える影響があるとは思いませんでした。まいっちゃうよねえ。(^-^;))

■来た話は断らない

まあそういったわけで、うちの会社に講師派遣の要請があり、私に話が降ってきました。最初は「なんで俺に？」と思いましたが、大学で講義ができるなんて機会もそうそうないと、引き受けることにしました。これだけの人数が社内において、声をかけていただくこと自体が光栄でもあると思ったのです。また、推薦くださったのが技術のTOPである方だったというのも燃えざるを得ない要因でした。それから、世の中これだけの技術者がいますが、たとえ非常勤だとしても大学で教授する機会を得られる人は少ないと思います。つまり、他の人がなかなか得られない経験をする機会であり、また人生としてもあるポイントになるとのぼんやりとした確信もあったのでした。

■あっという間の一年で…

ということで、気がついてみたら一年が経ち、筑波大学にいました。当日までの準備は思った以上に大変でした。社内のはんこをもらうための資料作りとか、政治の話の調整とか。また、今回は名古屋大学の森氏と共同で講義を持つことになったので、その打ち合わせで何回か名古屋まで足を運んだり、そういったところも大変でした。

さて、当日の講義ですが、40名強の学生が聴講。果たしてメッセージが伝わったかわかりませんが、無事に終了することができました。レポートを出しましたが、その提出を楽しみにしているところですよ。

■んで、ミュージカルネタですが…

ミュージカルネタですが、自己紹介で年間100回観劇しています、みたいにアピール(?)してきました。ただ、言っぱなしだと面白く無いので次のように続けておきました。

「年間100回というと3~4日に1回は観る計算です。普通に考えたら無理な回数です。でも無理じゃない。定時に帰れば、定時に帰るためにはどうするか。ちゃんと自分の仕事をマネジメントすることが必要。そして計画面では、様々作業の効率を、品質を保ったまま上げるために様々な技術を使う。

テスト業務はプロジェクトの終盤に工程が位置する。このため、定時に帰れない状況はすなわち納期に影響を及ぼす可能性が高く、焦りから品質も落ちるだろう。つまり、お客様に御迷惑をおかけすることにもつながってしまう。

これからお話することは、自分の趣味を満足するためにも、お客様に御迷惑をおかけしないためにも必要なことです。しっかり聞いてください。」まあこれが正しいかどうかは置いて（ツッコミどころ満載でしょうが（苦笑））、学生に興味を向けさせることは、多少はできたかなと思います。

■自分の趣味を用いてテストを比喻してみる

今回は学生に物事を伝えやすくするために観劇趣味を用いてみましたが、日々の業務でもこういったことは必要かなあと考えています。ITが専門ではないお客様に物事を伝えるとき、テストが専門ではない設計者に物事を伝えるとき、etc… WACATEの演習でも「いかに人に伝えるか」に苦勞する方も少なくありません。伝えるための比喻力を考えてみてはどうでしょうか。

■終わりに

11月はいよいよモーツァルト！が上演開始です。相変わらずミュージカルらしいキャストが揃っていますね。とても楽しみです(^-^<終>

WACATE-Blog出張所

当番：コヤマン (WACATE 実行委員会)

すぺしやる！

◆TEF 道の仲間と行く、脱ガッカリツアー・ニセコ積丹ドライブツアー！

JaSST' 10 Hokkaido を終えた我らは TEF 道の仲間達と一つの冒険に旅立ちました！

脱ガッカリツアーとして組まれた、ニセコツアーです！

JaSST' 10 Hokkaido が終了したばかりだと言うにも関わらず素晴らしい仕事をしてくださったので、その一部始終を独断と偏見で紹介します！

◆朝からテンションアゲアゲ。

ちょっぴり酒を残しながらも道庁前に集合した一行。

温かい日差しと涼しい風の爽やかな朝。オラ、ワクワクしてきたぞ！

さあ皆さん、ニ・セ・コ・に、行きたいかー！？



おー！

かくしてニセコツアーは封切られました！

とはいえ、ルートは完全に TEF 道の皆様にお任せ！（とゆーなんとも無責任きままな旅！）

さあ、どこでも連れていっておくんまっしっ！

TEF 道の皆様はなんと車を3台も出してください、昨日の疲れもなんのその、朝から気合満タンで駆けつけてくださいました。本当に有難うございます。m(_ _)m

そして一行は…

まず！やっぱし！北海道といえば！

…とゆーワケで一行はまず「小樽」に向けて発進しました。

コヤマンはあだちさんと JaSST' 10 Hokkaido 副実行委員長のネモっちこと根本さんと一緒にの車の中で、比較的マジメな話をしてました（この時はね）！

道中の車の中でコヤマンが

「海スゲー」

「崖カッケー」

「北海道パネェー」

なんてことを言っていたらあだちさんから一つ提案が。

「んじゃ、海の方行ってみる？」

…もうウッキウキですよ。

◆うーみー！

コンビニで軽く休憩をした後、海岸の近くに車をとめて砂浜に向かう一行。



う、うーみー！

もうね。いい大人たちが靴脱いで大はしゃぎですw



すーなーはーまー！

てーふーどーおー！？



貝殻で遊んだり、鳥を観察したり、北海道の自然と触れ合ってきました。
なんか北海道からパワーをもらった気がします！

◆ウヰスキー！

海で散々遊んだ後は車で
「ニッカウヰスキーの工場」へ！
おお。道産子はパワフルだぜw



日本の職人のワザや歴史、竹鶴さんの熱い思い…
たくさんのモノに触れてきました。
こんなマシーンがたくさん置いてありました。



ウヰスキーってスゴいなあ。

◆うーにー！

運転手役の羨望の眼差しを背負いながらもさんざん試飲した後は、ランチに**海鮮丼**を！！

これぞ北海道！うーにー！！



いやもうね。旨くないワケがないですよ。
見てコレ。いや、見てるってか。
…まあ、堪能しましたwデュフフwww

そしてココから一行は

「メシ食ったら温泉だろ！w」

とゆーワケで温泉を目指すことに！
なんて贅沢な、至れり尽くせりなぐうたら旅…！
道産子達の脱ガッカリにかける情熱は凄まじい！

とゆーワケでネモっち推薦の積丹半島にある景色のよい温泉を目指すことになりました。

◆燻製屋さん！

温泉！温泉！と一行が夢中になる中、途中でオススメの店があるとのことで立ち寄ったのが燻製屋さん。

なんとTVにも取り上げられたお店とか。
「[南保留太郎商店](#)」です。

これがまた物凄く良いカンジのお店！

「これ、美味いんですか？」

という質問に対し笑顔で

「失礼なこと聞くなえw美味いから売ってるんですよ！」

と返答してくださいました。

素晴らしい。



燻製卵をその場で頂きましたが、1つ60円でこれは美味すぎる！！！！

北海道はスゲーぜ。食べるモノ食べるモノ、なんでも美味いぜ！
おつまみに「燻し奴(やっこ=豆腐)」を買って帰りました^^

◆しゃこたんの湯！

道中は自然豊かな道を行き、どんどん北に向かいます。積丹(しゃこたん)半島のとっぺんらへんに位置しているココがウワサの「岬の湯 しゃこたん」！！



コレがまた凄い景色。

空・海・温泉！

空と海を見ながら温泉に入って空を見上げる…

これがホント、何も考えられなくなるくらい気持ち良くて。

なんだか、僕は自分のちっぽけさを感じながらもそれを包んでくれるこの空が青くてなみだ(ry

…とまあ、なんだかポエミーな感じになりましたw

あだちさんは「あ〜。溶ける〜。」って言っていましたw

ココでは MAQ69 さんの温泉部・伝統技とネモっちの温泉芸が火を吹きましたw

…詳細はととても書けませんw

◆夕焼け - 青春 -

半島の先にあるしゃこたんの湯から半島の逆を回ってニセコに向かいます。

その途中、ちょうど日没の時間がやってきました。



全てが仕組まれているかのように雄大で。

WACATE と TEF 道達はしばし時を忘れました。

どこまでも広がる空にゆっくり沈んでゆく太陽。
遠くに沈む夕陽を見ながら、言葉もなくただたたずんでいました。

◆ニセコ！

青春を満喫した後はニセコに。

これまたホテルが豪華！

TEF 道の方が所属している会社の保養所らしいのですが、超豪華！



あんまり細かく掲載できませんが、この豪華なところに一泊できるなんて！

しかも夜はジンギスカン！

ジンパ(ジンギスカンパーティ)だ！

※夢中だったので撮影し忘れたw

ジンギスカンを満喫した後はウヰスキー工場を買ったウヰスキーを片手に燻製屋さんで買った燻製をつまみながらずっと談笑しながら飲んでいました。

こんなカンジでわいわいと。



話題はあまり技術的でなかった気がしますが、JaSST'10 Hokkaidoでお疲れだったのでしょうか。皆さん肩の荷が下りてリラックスモードでした^^つついりリラックスしすぎちゃいましたねw

とても良い笑顔で、JaSST'10 Hokkaidoの疲れを皆さん癒されたようです。そうしてニセコの夜は更けていったのでした。。。

◆ニセコツアー2日目

朝起きた一向は朝食を摂り、すぐ今日のプランを練ります。

あだちさんが帰宅したためジャンケンしてメンバー変更！…といってもあまり変化なしw

目指すは札幌！

◆大湯沼！

道中大湯沼というところに寄ると、そこには恐ろしい光景が！

おおー！すごい湯気！すごい色！

なんじゃあこりゃああああ！！(ゆーおく風に)



すごい臭気！w

天然温泉がわいているんですね。ものすごい硫黄臭と色のついた温泉。

そしてなんでも学術的にはとても価値があるとか何とか言われている、この泡！



…どうみてもヘルです。ヘルバブルと勝手に命名。

すごいオイニーでした。自然ってすげー。

◆中山峠！

ヘルバブルを拝んだ後は羊蹄山を望みながら移動。少し天気が悪れてきましたが、揚げいもで有名な中山峠へ！

どーん！



揚げいもはこんなカンジで衣をつけて揚げたいもが3兄弟になっている食べ物です。

羊蹄山は富士山に形が似ていて、とても美しい山です。あいにくの天気でしたので中山峠からは見ることはできませんでしたが、間近で見た後での移動だったので大満足でした。

しかし皆、良く食べるよ！w

◆CHUTTA!

すっかり揚げいもでお腹いっぱい！と思いながらも来ました。

「スープカレーCHUTTA!」

コヤマンの帰る時間が迫っていたためあまりゆっくり食べることができなかつたのですが、とても美味しいスープカレーでした！



辛さの調節が段階的にできるところと、ゴハンが玄米にできたところが個人的にはツボでした！

北海道はホント美味しいものたくさん！

◆さらば北海道！

だーっと駆け足で過ぎ去っていった2日間でしたが、北海道の自然と美味しい食べ物、そして、温かい北海道の人間に触れることができた2日間でした。

JaSST'10 Hokkaidoの疲れも残っているはずなのに車まで出してくださった

oreshioさん、MAQ69さん、ネモっち。

そして忙しい中かけつけてくださった

あだちさん、聡美塾長。

ホントに有難うございました。皆さんののおかげでとても贅沢な2日間を過ごすことができました。

また長旅の中一緒に遊んでくださった皆さん、

rin2さん、おたべさん、saynak38さん、

3rd_Violinさん、有難うございました！

また行くぜ！北海道！！！！

書いた人：コヤマン

開運

源太郎の
ソフトウェアテスト占い

※「ソフトウェアテスト占い」とは…
日本の伝統的な暦で知られる気学(九気性)をもとに、日本古来の統計学とソフトウェアテストで培った時代の統計学を組み合わせ考察された占いである！(笑)

	生まれ年	11月の運勢
一白水星	S38/S47/S56/H2	今月は運気が衰運となる。自身の先が見えず進退に窮する状態に陥る感さえある。焦らず足下を見据え、軽拳を積み甘言に惑わされぬように現状維持を心がけよ。
二黒土星	S37/S46/S55/H1	今月中宮となり運気は悪くは無いが、あまりにも運気が強すぎるため八方に敵を持つ状態になっている。俗に言う八方塞がりの形になる。変化・変動も多く焦りは厳禁なり。自身の事に注意すべし。
三碧木星	S36/S45/S54/S63	運気は厳しいものがある。年盤と相性が良いために前途も見え心も安定してくる。東方に見えるものは、わずかな明かりでも援助の手を差し伸べてくれるはず。
四緑木星	S35/S44/S53/S62	運気は至って不安定で焦燥の月とも言えそう。万事粗相の多い多難な月ゆえ禿角誤解も起きやすく調和が取りにくい。焦るほど深手が大きくなるので注意し、地道に自身の力を蓄えることに心がけよ。
五黄土星	S34/S43/S52/S61	運気は引き続き好調と見る。成し得無かったことはこの機を逃すことなく事を運ぶこと。二度と来ぬチャンスかも知れぬ。人と争うことなく全員で協力が肝要。
六白金星	S33/S42/S51/S60	運気は上昇している。何かが生まれ育ちつつある。間違ってもその芽を摘むことなく育成させていくことが大切なり。何事も堅実な方針をたてること肝要なり。
七赤金星	S32/S41/S50/S59	運気はこれから上昇傾向にある。年盤の本命星・後天定位盤と相性が良いために好機到来なる。しかし月盤の本命星から見て生産・企画育成等に注力し、投機・破壊・販売には要注意なり。相手との話し合いも希望ある方向に進めること期待できる。
八白土星	S31/S40/S49/S58	今月の運気はやや足下が明るくなってきている。大きな事故の心配もなさそう。しかし変化変動の動きは消えてはならず。月盤で暗剣殺となり年盤で破を受けるために、まだ要注意の状態にはちがいない。
九紫火星	S30/S39/S48/S57	運気は得難い盛運月とも言える。しかしそのためかえて気を緩め易く、好機を取り逃すことが多くなる。堅実な行動で足下を固め進めば成果は上がる。

月盤 二黒土星				年盤 八白土星			
南				南			
			暗剣殺				五黄殺
東	1	6	8	東	7	3	5
	9	2	4		6	8	1
	5	7	3		2	4	9
西			暗剣殺	西			
北				北			
五黄殺				暗剣殺			

❁お知らせ❁

11月30日(火)に WACATE-Magazine vol.24 発行します！(たぶん)

次号の特集は「WACATE 2010 冬 直前 Report!!」を予定しています★

来たれ！投稿戦士！

WACATE-Magazine では“ソフトウェアテストや品質に関する記事”を常に募集中です。
来たれ！投・稿・戦・士！！！！

WACATE-Magazine はボランティアベースで発行されています。したがって原稿料は出ません。※ノーギャラです。
投稿いただいた原稿の掲載可否、掲載時期については編集部で決定させていただきます。
特定の商用ツールやサポートなど営利色が強い原稿は原則として掲載いたしません。
レイアウトなどは全て編集部で行います。また、特に戻り確認などを行いません。
単なる論文は掲載しません。紙面の雰囲気を読んだ、イイ感じな文体や内容をお願いします。
公序良俗に反すると思われるものについても掲載しません。

以上を了解した上で、覚悟完了！な方は WACATE-Magazine 編集部「magazine@wacate.jp」まで、是非ご連絡ください。
折り返し、担当より要綱をご連絡いたします。
楽しい、そして役に立つ紙面にするため、是非ご協力いただければ幸いです♪

☆その他、WACATE-Magazine では以下の情報をお待ちしています☆

- 書籍情報(オススメ書籍情報も可)
 - イベント情報(ソフトウェア/品質/テスト関連)
 - 勉強会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
 - オフ会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連)
 - デザート情報(甘いものならなんでも。イカス！やつで。)
- などなど、お待ちしております♪



来たれ
次世代の
戦士達よ！！

WACATE実行委員募集中♪

★★★ WACATE 実行委員募集中 ★★★

編集後記

いいんちょ★WACATE2010 冬が迫ってきました！ 申し込みお急ぎを！！
きたー★時間を作り出すスキルと、頭の切り替えを素早くできるスキルって
重要だね。もってないけど(^-^；
よえだ★WACATE 2010 冬でお会いしましょー！！
コヤマ★そろそろ WACATE 2010 冬の募集締め切りが迫って参りました！
今回も盛り沢山ですよ！わー！楽しみー！ドキドキするーww
ぼんぼん★今年もトリは九州だよみんな、九州で会おうよ！！！！

★あくづけ★

2010/11/07(sun)はっころ
WACATE-Magazine へんしゅろ
Magazine@wacate.jp
<http://wacate.jp/Magazine/>